［論　文］

保育者・教員養成課程のピアノ実技レッスンにおける レッスン内容の記録の有効性について（２）
－「音楽Ⅰ」の実践をとおして－

The Effectiveness of Recording Teaching Contents in Piano Lessons in Childcare Worker and Teacher Training Courses（2）
－Through the Practice of Music Ⅰ－

武　田　恵　美

要旨

保育者・教員養成課程におけるピアノ実技では、グループレッスン形式を取っている場合が多く見られる。そして、レッスンを直接受けている学生以外の学びに差があるのではないかと考えた。

本研究では、ピアノ実技レッスンにおいて受講生と記録係を２人１組にし、記録係がレッスン内容を記録することによって、記録係自身の学びの向上を目指すことを目的とした。そして、受講生の指導内容を記録することにより、学習へ取り組む姿勢、態度や演奏にまで変化が見られた。本稿は、アンケート調査の結果から分析し考察することを手法とし、記録係の心的、技術的影響やその変化に焦点を当てたものである。

キーワード：保育者養成課程（childcare worker training course）／
教員養成課程（teacher training course）／ピアノ（Piano）／
事後学修（learning afterwards）／ワークシート（work sheet）

１．はじめに

筆者は、保育者・教員養成課程において、子どもの豊かな表現や感性を引き出し、育むことができる保育者・教員の養成を目指している。そして、将来、保育者・教員となる学生が、基礎的なピアノ演奏技術を習得し、豊かな表現力を持って演奏することによって、前述した保育者・教員を養成することができるのではないかと考えている。

保育者・教員養成課程におけるピアノ実技レッスン（以下、「レッスン」という。）では、多くの場合、教員１名に対し数名の学生が交代でレッスンを受ける「グループレッスン形式」を採用している。この場合、レッスンを受けている学生（以下、「受講生」という。）には、多くの学びがあると考えられる。しかし、レッスンを聴講している学生（以下、「聴講生」という。）には、レッスンを見たり聴いたりしている状態が続き、各々の興味・関心やその時の学習意欲によって、学びの質や量に差が出ているのではないかと考えている。

武田（2020）では、「レッスンメモ」を導入し、受講生と聴講生の中から選ばれた記録係（以下、「記録係」という。）１名を２人１組にし、受講生のレッスン内容を記録することによって、受講生の学びの質や量の向上に有効であること[1)]を明らかにした。

本研究は、武田（2020）に続き、A短期大学「音楽Ⅰ（ピアノ・楽典）」における、「レッスンメモ」に関するアンケート調査より、記録係の学びとその変化を分析し考察したいと考える。

また、本研究を行うにあたり、佐藤（2018）が、アクティブ・ラーニング型のレッスンを行い、養成校における理想的なレッスンのあり方

TAKEDA, Megumi
北陸学院大学　人間総合学部　子ども教育学科
器楽Ⅰ

を、実践とアンケート調査により探っていること[2)]や、倉戸（2020）が、レッスンの長所や短所を考察し、受講生への指導方法について探っていること[3)]がわかっている。

２．研究目的

まず、保育者・教員養成課程におけるレッスンでは、聴講生の学びの質や量に差が出ているのではないかと考える。そこで、記録係が「レッスンメモ」を作成し、それを確認することによって、教員の指導内容を客観的に確認できるのではないかと考えた。また、記録係が「レッスンメモ」を作成することによって、自身の演奏に対する姿勢や態度、音楽理論の理解、演奏技術を向上させることができるのではないかと考える。

本研究では、「音楽Ⅰ（ピアノ・楽典)」において導入した「レッスンメモ」に関するアンケート調査より、記録係の学びの変化について分析することを目的としている。また、「レッスンメモ」を作成することによって、記録係の心的影響、技術的影響を分析し、その有効性について検討することを目的としている。

３．研究手順

武田（2020）と同様、以下のとおり行う。

（１）「音楽Ⅰ（ピアノ・楽典)」の第５週から第14週及び第17週から第29週において、レッスン内容を記入する「レッスンメモ」を学生へ配布する。

（２）受講生１名に対し、記録係１名を選び、２人１組にして、レッスン内容を記録する。なお、受講生と記録係の組み合わせは、毎週異なるよう配慮する。

（３）第30週に行われる課題曲の発表後に、「レッスンメモ」に関するアンケート調査を実施する。

（４）調査結果より、記録係や記録係の心的、技術的影響を分析し、その有効性について検討する。

４．研究内容

４－１．「音楽Ⅰ（ピアノ・楽典)」の授業概要

「音楽Ⅰ（ピアノ・楽典)」は１年次通年開講科目で、保育士資格及び幼稚園教諭二種免許取得の選択科目である。そして、本項目ではレッスンの内容にのみ焦点を当てる。また、授業の概要、到達目標、単位取得などは、武田（2020）に提示している。

４－２．2019年度「音楽Ⅰ（ピアノ)」の授業展開

授業では、まず「レッスンメモ」を配布し、受講生が約10分のレッスンを受ける。記録係は、レッスン内容を記録し、レッスン終了後に受講生へ返却する。受講生は、「レッスンメモ」を確認し、レッスン内容を「レッスンノート」へまとめ、教員の押印を受ける。

４－３．授業及び事後学修の取り組みの変化

「レッスンメモ」導入後、記録係の授業及び事後学修の取組みに変化があったか否か、アンケート調査を実施した。結果は以下のとおりである（表１）。

表１　取組みの変化

	内容	%
1.	変化があった	100.0
2.	変化がなかった	0.0
3.	どちらとも言えない	0.0

（小数点第二位以下四捨五入）

また、表１で、「1.変化があった」と回答した記録係に、変化の内容を自由記述させた（表２）。

表２　変化の内容（自由記述）

A. 人の曲を聴いて、注意点をメモに書き込むことで、自分がその曲を弾くときに参考にするようになった。
B. 他の学生の演奏を注意して聴くことで、表現方法を学んだ。
C. 自分がその曲を弾くときに、自然と「ここ気をつけよう」と思いながら弾けるようになった。
D. 皆のピアノを注意深く聴くようになった。
E. みんなのバイエルの弾き方や強弱に意識がいくようになった。
F. 先生がレッスン中に言ったポイントを、自分も家で練習することができた。
G. 他の人の演奏をじっくり観察もできて、自分も気をつけようと思う部分をわかることがで

きた。

H. レッスンメモに苦手なことを書くことで、自分も「絶対に間違えないぞ」と思い、練習する時間が増えた。

I. 自分が言われたことも、ゆっくりと見返すようになった。

J. 友だちからの応援メッセージに励まされたので、自分も応援メッセージを書き一緒に頑張ろうと思えるようになった。

K. 自分がどこを間違えて弾いたのかを思い出せるようになったし、細かく楽譜を見ようと思えるようになった。

L. 人のミスをしっかりと聴いて、自分が弾くときに活かそうと思えるようになった。

M. 人のレッスンメモを見やすく書くことや気付いたことを書いたりすることで、書く力もつくし、音楽のことを勉強することもできた。

N. レッスン中に指導された部分を覚えきれない時には、レッスンメモを見て振り返ろうと思うようになった。演奏がうまくいかなかった日も、メッセージを送り合うことで、頑張ろうと思えるようになった。

４－４．「レッスンメモ」作成による心的、技術的影響

「レッスンメモ」を作成することによる記録係の演奏への心的、技術的影響について、アンケート調査を実施した。結果は以下のとおりである（表３）。

表３　心的、技術的影響

	内容	%
1.	十分にあった	71.4
2.	あった	28.6
3.	少しはあった	0
4.	どちらともいえない	0
5.	なかった	0

（小数点第二位以下四捨五入）

また、表３で、「1.十分にあった」、「2.あった」と回答した記録係に、影響の内容を自由記述させた（表４）。

表４　影響の内容（自由記述）

A. 強弱を気にするようになって、自分のピアノに生かせた。

B. 表現方法、強弱のつけ方、歌い方を自分の演奏に生かせた。

C. 自分が知らなかったりわからなかった表現を知ることができ、自分が弾く曲に同じような表現があったときに思い出して表現を意識して弾くことができた。

D. 強弱をもっとわかりやすくつけようと生かした。

E. 自分も他の人が注意されたのと同じ弾き方をしている所があった時に、注意されていたことが印象に残っていて、弾き方を変えることができた。

F. 他の学生の演奏を集中して聴き、注意を自分の演奏に生かすことができた。

G. 音をのばすところや、自分の弾いている曲にも生かせる注意を、他の演奏から得ることができた。

H. ここは滑らかに演奏した方が良い等、他の人が指導された楽譜に載っていない細かいところを自分も改善することができた。

I. 他の人が指導された記号が自分に出てきたときに気をつけることができた。

J. 自分が曲を演奏する時に、他の人が注意されていた所を気をつけることができた。

K. 他の人が間違えたところを、自分が次に間違えないようにしようと思えた。

L. 先生が言ったこと以外にも、自分が気付いたことを書くことで勉強になった。

M. レッスンメモを記入するときに、楽譜を確認しながら書くことで、注意深く楽譜を見るようになった。

４－５．レッスンメモ作成に対する感想

記録係として「レッスンメモ」を作成した感想について、アンケート調査を実施した（表５）。

表５　作成に対する感想

	内容	%
1.	とても大変だった	0
2.	大変だった	7.1
3.	楽しんで取り組めた	92.9
4.	苦痛だった	0
5.	その他	0

（小数点第二位以下四捨五入）

また、その詳細を自由記述させた（表６）。

表６　感想の詳細（自由記述）

A. ただ聴いているだけではなく、レッスンメモを書くことで目的意識をもち、授業に楽しく取り組めた。
B. 他の人のレッスンをより聞くようになり、どう書けばわかりやすいのか考えながら書くことが楽しかった。
C. 自分もレッスンを受けているような感覚でレッスンを聴くことができたから。
D. 他の人のピアノの表現を注意深く聴くことができたから。
E. 自分がレッスンメモを書いた内容について、他の学生が直っていくことや上手くなっていることを感じられたから。
F. 他の学生の曲を聴いて、自分が弾くときに生かそうと思えたから。
G. レッスンメモを工夫して書いたり、絵を加えたりして書くのが楽しかったから。
H. 友達がレッスンメモを見返して苦手を克服できたときに嬉しいから。
I. 人のピアノを聴いて、アドバイスができることが楽しかったから。
J. 自分の復習もできるし、相手の注意を聴いて自分に生かすことができたから。
K. 楽譜の中にある音符を言われてもわからなくて、メモを取ってあげられないことがあったから。
L.「頑張ろう」など書いて、みんなで励ましあえて良かったから。
M. 友達の演奏をじっくり聴くようになったし、友達の苦手なところも知れた。その為レッスンが終わってからみんなで注意し合うことができたから。

５．研究結果と考察

５－１．授業及び事後学修の取組みの変化

「レッスンメモ」導入後、授業及び事後学修の取組みに「1.変化があった」と答えた記録係は、100％であった。これは、「レッスンメモ」が記録係の授業及び事後学修の取組みに何らかの影響を与えていると考えられる。

授業の取組みの変化では、①受講生の演奏を注意深く聴くようになった、②受講生の演奏を注意深く聴き、注意すべきポイントを理解し、自らの演奏に役立てた、③受講生の演奏を注意して聴くことで、表現法や強弱を学んだという記録係がいた。これは、聴く能力の向上、注意点の理解、演奏表現法への気づきがあったと考えられる。

また、事後学修の取組みの変化では、①注意点の明確化により練習内容が向上した、②自らの課題を再確認するようになった、③練習意欲が向上したという記録係がいた。これは、注意点の理解、課題の再確認、練習意欲の向上があったと考えられる。

筆者は、「レッスンメモ」の作成により、記録係を経験した学生に授業及び事後学修の取組みの変化がみられ、聴く能力の向上及び曲の注意点への理解が深まったと考える。しかし、記録係の能力の向上及び理解度には差があると考える。

５－２．「レッスンメモ」作成による心的、技術的影響

「レッスンメモ」の作成による技術的影響は、「1.十分にあった」は71.4％、「2.あった」は28.6%であった。記録係を経験した学生全員に、「レッスンメモ」の作成が自身の心的、技術的影響を与えたと考えられる。影響の内容をみると、①受講生への指導内容を自らの演奏に生かした、②受講生の演奏から表現法を学び自らの演奏に生かした、③受講生の演奏への気づきをレッスンメモに書くことで学びを深め、自らの演奏に生かしたというものであった。これは、教員の指導内容から得た学び、聴講することによる学び、演奏に対する気づきを可視化することによる学びがあったのではないかと考えられる。

記録係を経験した学生が、「レッスンメモ」を作成する上で、教員の指導内容や受講生の演奏を注意深く聴くことから学び、記述することによって理解を深め、自らの演奏に生かしていることがわかった。

５－３．レッスンメモ記入に対する感想

「レッスンメモ」を作成した感想は、「1.大変だった」は7.1％、「2.楽しんで取り組めた」は92.9％、であった。このことから、「レッスンメモ」を作成することによる記録係への負担は、おおむね無いと考えられる。

また、「2.楽しんで取り組めた」に対する理由は、①意欲的に授業及び事後学修に取り組めるようになったことに楽しさを感じた、②受講生への指導を自らの演奏に生かせることに楽しさを感じた、③受講生の演奏技術向上に貢献できることに楽しさを感じた、④仲間と課題を共有し、学び合うことに楽しさを感じたという記録係がいた。これは、授業参加意欲の向上、事後学修への取組み意欲の向上、他者と学び合う意欲の向上があったと考えられる。

さらに、「1.大変だった」に対する理由は、レッスンメモを記入するだけの音楽理論の理解が不足している記録係がいた。これは、受講生と記録係の学習進度に差があることが考えられる。

筆者は、多くの記録係が積極的に「レッスンメモ」の作成に取り組み、授業や事後学修の意欲を高めることにつながっていたのではないかと考える。しかし、受講生と記録係の組合せによっては、記録係が負担と感じることもあると考える。

６．まとめと課題

「レッスンメモ」導入後、記録係の授業及び事後学修の取組みの変化をみると、どれも受講生のレッスンを注意深く聴いたことによる改善であることがわかった。また、記録係自身の心的、技術的影響や、「レッスンメモ」の作成に対する感想をみると、多くの記録係が意欲的に「レッスンメモ」の作成に取組み、記述時に得た情報を自身の演奏に生かしていたことがわかった。筆者は、「レッスンメモ」を作成したことで、授業及び事後学修の取組みを改善し、記録係自身の演奏内容の改善に有効であったと考える。つまり、記録係のピアノの演奏技術の向上につながるのではないかと考えている。

本研究では、「レッスンメモ」の作成による、記録係の演奏技術向上への有効性が明らかとなった。しかし、記録係の音楽理論の習熟度によっては、教員の指導内容の理解が難しく、正確に記述されないことが懸念される。そのため、受講生と記録係の組合せについては、学習進度を考慮して決定する等、検討する必要があると考える。

保育者・教員養成課程のレッスンでは、学生が限られた時間を最大限有効活用し、演奏技術の習得を目指す必要があると考える。そのために、受講生のみならず、全ての学生が学びを得られる授業内容、授業展開を模索する必要があると考える。

〈註釈〉

1) 武田恵美「保育者・教員養成課程のピアノ実技レッスンにおけるレッスン内容の記録の有効性について-「音楽Ⅰ」の実践をとおして-」（北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部紀要），2020，第13号，pp.177-183.

2) 佐藤雄紀「保育者養成校におけるアクティブ・ラーニングを用いたピアノレッスン及び幼児に対する音楽表現指導法に関する一考察」（信州豊南短期大学紀要），2018，35号，pp.224-250.

3) 倉戸テル「教員養成学部の授業としてのピアノ実技指導：その現状と課題」（宮城教育大学紀要），2020，54巻，pp.259-266.

〈参考文献〉

Ferdinand Beyer，『新訂　バイエルピアノ教則本』，音楽之友社，1998.（96頁，9784276410008）

繁下和雄編，『幼児の歌130選』，全国社会福祉協議会，2002.（265頁，9784793506154）

木許隆監修，『うたのファンタジー』，圭文社，2017.（214頁，9784874460641）

〈参考資料〉

2019 年度　「音楽Ⅰ」 レッスンメモ♪（武田クラス）

<table>
<tr><td>ﾚｯｽﾝ日</td><td>火曜　　限</td><td>回目　　／</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受講者</td><td>学籍番号</td><td>氏　　名</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td>記入者</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>曲目</td><td colspan="2">レッスン内容</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2"></td></tr>
</table>